

令和5年度第1回 幸田町地域公共交通会議 議事録

- 1 開催日時 令和5年7月26日(水) 13:00～14:20
- 2 開催場所 幸田町保健センター 2階 視聴覚室
- 3 出席者

【委員】

区分	職名等	氏名	備考及び代理出席者等
学識経験者	名古屋大学 未来社会創造機構 モビリティ社会研究所 教授	森川 高行	会長
	名城大学 理工学部 社会基盤デザイン工学科 教授	松本 幸正	副会長 欠席
交通事業者等	愛知県タクシー協会岡崎支部 支部長 (岡陸タクシー(株))	浅岡 林平	
	幸田タクシー株式会社 配車担当	葉賀 玲子	
	株式会社レミックス 代表取締役	池田 広史	
	町内交通事業者 運転手代表 (株レミックス)	三浦 節夫	
住民・利用者	幸田町区長会 会長	内藤 節夫	
	幸田町商工会 会長	神取 勇	
	幸田町老人クラブ連合会 会長	大嶽 弘	
	幸田町身体障害者福祉協会 会長	加藤 雅敏	
	幸田町手をつなぐ育成会 会長	小山 興建	
	幸田町聴覚障害者福祉協会 会長	高橋 恵子	欠席
行政	国道交通省 中部運支局 愛知運輸支局 首席運輸企画専門官	宮川 高彰	
	愛知県都市・交通局交通対策課 担当課長	石屋 義道	(代理出席) 課長代理 名倉 佑哉
	愛知県 西三河建設事務所 維持管理課長	久田 安信	
	愛知県警察 岡崎警察署 警部補	山口 幸治	(代理出席) 警部補代理 園生 賢一
	幸田町 副町長	大竹 広行	

敬称略

【事務局】

職名	氏名	備考
幸田町 企画部 部長	成瀬 千恵子	
幸田町 企画部 企画政策課 課長	柴田 淳一	
幸田町 企画部 企画政策課 主幹	石川 純子	
幸田町 企画部 企画政策課 主事	清水 総公	

【事務局補助】

職名	氏名	備考
株式会社建設技術研究所	栗生 啓之	
株式会社建設技術研究所	長谷川 正利	
株式会社建設技術研究所	小倉 永都	

4 会議次第

- 1 挨拶
- 2 協議事項
 - (1) 【第1号議案】令和4年度の決算報告及び監査報告について
 - (2) 【第2号議案】幸田町地域公共交通計画（仮称）策定について
- 3 閉会

5 資料

- ・資料1 【第1号議案】令和4年度の決算報告及び会計監査報告書
- ・資料2 【第2号議案】令和5年度の事業計画及び予算の確認
- ・資料3 【第2号議案】計画策定に向けた検討方針・スケジュールについて
- ・資料4 【第2号議案】現況整理について
- ・資料5 【第2号議案】都市交通政策に関するニーズ調査計画について

6 議事内容

1 挨拶

（森川会長挨拶）

本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。昨年度は、地域公共交通計画策定の準備期間でしたが、今年度は本格的に計画策定に向けて動き始めていきます。その中で先日、委託業者が建設技術研究所に決まりました。本会議を通して、計画について議論していきたいと思っています。よろしくお願いします。

2 協議事項

- ・事務局より資料1に基づいて説明、池田監査人から会計監査について報告
- ・第1号議案の承認

- ・事務局より資料2、資料3、資料4、資料5に基づいて説明、建設技術研究所より資料5に基づいて説明

【質疑等】

委員：特定小型動力付自転車、いわゆる、電動キックボードについて、町として何か施策を行っているのか。また、町は個人の所有状況を把握しているのか。

事務局：現状、町として電動キックボードに関する施策は行っていない。また、電動キックボードの個人の所有状況については把握していない。

委員：市街地では、道路状況によりハード整備の必要があり、幸田町や岡崎市では坂が多いため電動キックボードは馴染みにくいと思われるが、16歳以上であれば免許の必要なく運転できること、交差点で歩行者や車との交通事故の危険性が高いことや、車輪が小さい

ため少しの段差であっても転倒の危険があるため、何か施策を実施する場合は注意していただきたい。

事務局：電動キックボードに関するニーズが増えてくるようであれば、関係各所に相談しながら、道路部局との調整・連携を図りつつ、対応を考えていきたい。

委員：電動キックボードのヘルメットの着用は努力義務であり、危険と感じている。また、歩行者、自動車問わず交通ルールの徹底があまりされていないと感じている。交通ルールの遵守やマナー向上に向けて、何らかの対策が必要だと感じている。

委員：免許所有者であれば、教習所や免許更新の際に座学を受けているが、免許を持たない人については、学校の出前授業や交通講座でしか、交通ルールの普及・啓発に関する機会が無いのが現状である。

会長：電動キックボード等の普及に伴う、交通安全上の問題に関する懸念は多くあるかと思う。仮に、幸田町として電動キックボードシェアリングに関する施策を行うのであれば、公共交通の位置付けになるかと思う。現時点では、幸田町として電動キックボードシェアリングに関する施策を行う予定はないということなので、電動キックボードと同じ道路をシェアする、タクシー、バス関係の方に十分ご配慮いただければと思う。

委員：ニーズ調査のうち、障害者団体へのヒアリング調査にて予定されている、福祉タクシー等の利用状況などの設問について、高齢者を対象にしたアンケートにも含めないのか。

委員：障害者団体にて福祉タクシーを利用している人は少なく、高齢者に対して調査した方がよいと思われる。

事務局：御意見を参考に、調査項目の修正を行っていく。

委員：この会議を通して、住民に対して公共交通がどのような状態になることを目指しているのかを教えてほしい。例えば、誰もが好きな時に移動できるようにするのか、最低限度の移動を担保するのか、どのような方向性を目指しているのかを教えてほしい。

事務局：この会議を通して、町全体の公共交通の目指すべき方向性を考えていきたいと考えている。また、財政状況や交通状況等の制約により、全ての要望に応えられるわけではないという点もご理解いただければと思う。そうした中で、公共交通に関するニーズ調査を行い、どのようなところに問題点があるかを分析していきたい。加えて、現在運行している公共交通が適正・的確なのかといったところを検証していきたいと考えている。この会議での議論を通して、「幸田町の公共交通がこうあると良いな」といったところが定まってくると良いと考えている。

委員：利便性の確保、生活の維持、どちらを目指すことを想定しているか。

事務局：費用対効果を踏まえながら、利便性の確保、生活の維持の両立を目指すことが必要だと考えている。大枠の交通体系のイメージは、幸田町都市交通マスタープランにて示させていただいているが、その交通体系の実現に向けて、どの交通モードを組み合わせるのがベストなのかといったところを見極めていきたい。

委員：ある団体で地域住民の要望を聴取した際、「えこたんバスの便数を増やしてほしい」という要望が上がってくる。しかし、えこたんバスの便数を増やしても、利用者数が増えないのが現状である。自分の車で目的地に行ける人は、車の方が便利であるため、車で移動してしまう。地域からの要望は出てくるが、利用者には直接結びつかないという現状がある。その辺りを踏まえて、将来的に高齢により免許を返納して公共交通を利用せざるを得ない人がどのくらい存在していて、将来的にどうなっていくのかを調べていくことが必要なのではないかと思う。

また、豊坂地区では、小中高生が通学する際に、えこたんバスをスクールバスとして利用

するという話も議論として挙がってきている。そうしたのも、町の方が赤字覚悟でやるのか、費用対効果を踏まえて抑えていくのかも考えていかなければいけないと思う。

事務局：アンケート調査でニーズ・課題を分析していき、現在運行している町内の公共交通について、一度整理していきたいと考えている。また、運転免許を持たない等の交通弱者の方に対して、交通手段を提供していくことが第一優先になるのではないかと想定している。そうしたものを目指しながら、計画を策定していきたいと考えている。

会長：今回の調査をベースに、しっかり対応していただければと思う。

委員：高齢者に対しての記載が多くみられるが、子連れの母親が小児科へ行くための助成などの施策は行われているのか。

事務局：現在の状況については担当課に現状を確認する。子連れについても対象として見ていくべき層であるので、検討していく。

委員：三ヶ根駅について、駐車場やバリアフリーの設備が不足しており、少し車で移動して幸田駅に向かうことなどで、利用者数が低迷していると考えられる。状況はどうなっているのか。

事務局：幸田町としても、三ヶ根駅の駅周辺整備を、一番の課題として取り組んでいる。エレベーターの設置も含めたバリアフリー化を目指して、地元の方々と協議を進めているところである。駅へのエレベーター設置の費用が高額であることが課題とはなっているものの、三ヶ根駅のバリアフリー化については、幸田町としても意識を持って進めている。公共駐車場については、公共の用地がなかなか生み出せていないというのが現状である。民間の土地ではあるが、シェア駐車場のサービスが展開されているため、そのサービスの普及・活用が進むと、もう少し一般の方の駐車需要に対応できるようになるのではないかと考えている。

委員：えこたんバスのスクールバス利用について、令和4年度においても利用者数が回復していない要因は何なのか。

事務局：コロナ禍により、スクールバスの利用が控えられ、その後、家族の送り迎えが常態化したのではないかと推測される。

委員：11月には藤田医科大学病院付近に岡崎警察署が移転し、免許更新だけで150～300人/日訪れるため、藤田乗合直行タクシーが利用できる状況になるといい。免許返納の理由について、現状は家族が送り迎えしてくれるという理由だが、代替移動手段があるという理由の割合が増えるとよいと考えている。

事務局：藤田乗合直行タクシーの停留所として、岡崎警察署を追加することは難しいと思うが、藤田乗合直行タクシーの利用者に対して、情報提供を行うことはできると思う。

委員：ニーズ調査のチラシの公共交通の色合いやフォントが見づらいと感じる。デザイナーなどに改善をお願いしたい。

事務局：わかりやすいデザインになるように改善していく。

・第2号議案の承認

3 閉会

事務局：委員の皆様におかれましても、お忙しい中お集まりいただき、また慎重に議論していただきありがとうございました。今年度は議論いただきました地域公共交通計画策定に向けた事業を進めていくにあたり、本日を含め、年4回の会議を予定しておりますので、引き続き幸田町の公共交通につきましてご意見をいただければと思っております。次回の開催につきましては10月頃を予定しており、開催日が決まり次第、改めてご連絡させていただきますので、よろしくお願いいたします。

以上をもちまして、令和5年度第1回幸田町地域公共交通会議を閉じさせていただきます。皆様、本日は大変お忙しい中、ありがとうございました。

以上

令和5年度第1回 幸田町地域公共交通会議 議事録

- 1 開催日時 令和5年7月26日(水) 13:00～14:20
- 2 開催場所 幸田町保健センター 2階 視聴覚室
- 3 出席者

【委員】

区分	職名等	氏名	備考及び代理出席者等
学識経験者	名古屋大学 未来社会創造機構 モビリティ社会研究所 教授	森川 高行	会長
	名城大学 理工学部 社会基盤デザイン工学科 教授	松本 幸正	副会長 欠席
交通事業者等	愛知県タクシー協会岡崎支部 支部長 (岡陸タクシー(株))	浅岡 林平	
	幸田タクシー株式会社 配車担当	葉賀 玲子	
	株式会社レミックス 代表取締役	池田 広史	
	町内交通事業者 運転手代表 (株レミックス)	三浦 節夫	
住民・利用者	幸田町区長会 会長	内藤 節夫	
	幸田町商工会 会長	神取 勇	
	幸田町老人クラブ連合会 会長	大嶽 弘	
	幸田町身体障害者福祉協会 会長	加藤 雅敏	
	幸田町手をつなぐ育成会 会長	小山 興建	
	幸田町聴覚障害者福祉協会 会長	高橋 恵子	欠席
行政	国道交通省 中部運支局 愛知運輸支局 首席運輸企画専門官	宮川 高彰	
	愛知県都市・交通局交通対策課 担当課長	石屋 義道	(代理出席) 課長代理 名倉 佑哉
	愛知県 西三河建設事務所 維持管理課長	久田 安信	
	愛知県警察 岡崎警察署 警部補	山口 幸治	(代理出席) 警部補代理 園生 賢一
	幸田町 副町長	大竹 広行	

敬称略

【事務局】

職名	氏名	備考
幸田町 企画部 部長	成瀬 千恵子	
幸田町 企画部 企画政策課 課長	柴田 淳一	
幸田町 企画部 企画政策課 主幹	石川 純子	
幸田町 企画部 企画政策課 主事	清水 総公	

【事務局補助】

職名	氏名	備考
株式会社建設技術研究所	栗生 啓之	
株式会社建設技術研究所	長谷川 正利	
株式会社建設技術研究所	小倉 永都	

4 会議次第

- 1 挨拶
- 2 協議事項
 - (1) 【第1号議案】令和4年度の決算報告及び監査報告について
 - (2) 【第2号議案】幸田町地域公共交通計画（仮称）策定について
- 3 閉会

5 資料

- ・資料1 【第1号議案】令和4年度の決算報告及び会計監査報告書
- ・資料2 【第2号議案】令和5年度の事業計画及び予算の確認
- ・資料3 【第2号議案】計画策定に向けた検討方針・スケジュールについて
- ・資料4 【第2号議案】現況整理について
- ・資料5 【第2号議案】都市交通政策に関するニーズ調査計画について

6 議事内容

1 挨拶

（森川会長挨拶）

本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。昨年度は、地域公共交通計画策定の準備期間でしたが、今年度は本格的に計画策定に向けて動き始めていきます。その中で先日、委託業者が建設技術研究所に決まりました。本会議を通して、計画について議論していきたいと思っています。よろしくお願いします。

2 協議事項

- ・事務局より資料1に基づいて説明、池田監査人から会計監査について報告
- ・第1号議案の承認

- ・事務局より資料2、資料3、資料4、資料5に基づいて説明、建設技術研究所より資料5に基づいて説明

【質疑等】

委員：特定小型動力付自転車、いわゆる、電動キックボードについて、町として何か施策を行っているのか。また、町は個人の所有状況を把握しているのか。

事務局：現状、町として電動キックボードに関する施策は行っていない。また、電動キックボードの個人の所有状況については把握していない。

委員：市街地では、道路状況によりハード整備の必要があり、幸田町や岡崎市では坂が多いため電動キックボードは馴染みにくいと思われるが、16歳以上であれば免許の必要なく運転できること、交差点で歩行者や車との交通事故の危険性が高いことや、車輪が小さい

ため少しの段差であっても転倒の危険があるため、何か施策を実施する場合は注意していただきたい。

事務局：電動キックボードに関するニーズが増えてくるようであれば、関係各所に相談しながら、道路部局との調整・連携を図りつつ、対応を考えていきたい。

委員：電動キックボードのヘルメットの着用は努力義務であり、危険と感じている。また、歩行者、自動車問わず交通ルールの徹底があまりされていないと感じている。交通ルールの遵守やマナー向上に向けて、何らかの対策が必要だと感じている。

委員：免許所有者であれば、教習所や免許更新の際に座学を受けているが、免許を持たない人については、学校の出前授業や交通講座でしか、交通ルールの普及・啓発に関する機会が無いのが現状である。

会長：電動キックボード等の普及に伴う、交通安全上の問題に関する懸念は多くあるかと思う。仮に、幸田町として電動キックボードシェアリングに関する施策を行うのであれば、公共交通の位置付けになるかと思う。現時点では、幸田町として電動キックボードシェアリングに関する施策を行う予定はないということなので、電動キックボードと同じ道路をシェアする、タクシー、バス関係の方に十分ご配慮いただければと思う。

委員：ニーズ調査のうち、障害者団体へのヒアリング調査にて予定されている、福祉タクシー等の利用状況などの設問について、高齢者を対象にしたアンケートにも含めないのか。

委員：障害者団体にて福祉タクシーを利用している人は少なく、高齢者に対して調査した方がよいと思われる。

事務局：御意見を参考に、調査項目の修正を行っていく。

委員：この会議を通して、住民に対して公共交通がどのような状態になることを目指しているのかを教えてほしい。例えば、誰もが好きな時に移動できるようにするのか、最低限度の移動を担保するのか、どのような方向性を目指しているのかを教えてほしい。

事務局：この会議を通して、町全体の公共交通の目指すべき方向性を考えていきたいと考えている。また、財政状況や交通状況等の制約により、全ての要望に応えられるわけではないという点もご理解いただければと思う。そうした中で、公共交通に関するニーズ調査を行い、どのようなところに問題点があるかを分析していきたい。加えて、現在運行している公共交通が適正・的確なのかといったところを検証していきたいと考えている。この会議での議論を通して、「幸田町の公共交通がこうあると良いな」といったところが定まってくると良いと考えている。

委員：利便性の確保、生活の維持、どちらを目指すことを想定しているか。

事務局：費用対効果を踏まえながら、利便性の確保、生活の維持の両立を目指すことが必要だと考えている。大枠の交通体系のイメージは、幸田町都市交通マスタープランにて示させていただいているが、その交通体系の実現に向けて、どの交通モードを組み合わせるのがベストなのかといったところを見極めていきたい。

委員：ある団体で地域住民の要望を聴取した際、「えこたんバスの便数を増やしてほしい」という要望が上がってくる。しかし、えこたんバスの便数を増やしても、利用者数が増えないのが現状である。自分の車で目的地に行ける人は、車の方が便利であるため、車で移動してしまう。地域からの要望は出てくるが、利用者には直接結びつかないという現状がある。その辺りを踏まえて、将来的に高齢により免許を返納して公共交通を利用せざるを得ない人がどのくらい存在していて、将来的にどうなっていくのかを調べていくことが必要なのではないかと思う。

また、豊坂地区では、小中高生が通学する際に、えこたんバスをスクールバスとして利用

するという話も議論として挙がってきている。そうしたのも、町の方が赤字覚悟でやるのか、費用対効果を踏まえて抑えていくのかも考えていかなければいけないと思う。

事務局：アンケート調査でニーズ・課題を分析していき、現在運行している町内の公共交通について、一度整理していきたいと考えている。また、運転免許を持たない等の交通弱者の方に対して、交通手段を提供していくことが第一優先になるのではないかと想定している。そうしたものを目指しながら、計画を策定していきたいと考えている。

会長：今回の調査をベースに、しっかり対応していただければと思う。

委員：高齢者に対しての記載が多くみられるが、子連れの母親が小児科へ行くための助成などの施策は行われているのか。

事務局：現在の状況については担当課に現状を確認する。子連れについても対象として見ていくべき層であるので、検討していく。

委員：三ヶ根駅について、駐車場やバリアフリーの設備が不足しており、少し車で移動して幸田駅に向かうことなどで、利用者数が低迷していると考えられる。状況はどうなっているのか。

事務局：幸田町としても、三ヶ根駅の駅周辺整備を、一番の課題として取り組んでいる。エレベーターの設置も含めたバリアフリー化を目指して、地元の方々と協議を進めているところである。駅へのエレベーター設置の費用が高額であることが課題とはなっているものの、三ヶ根駅のバリアフリー化については、幸田町としても意識を持って進めている。公共駐車場については、公共の用地がなかなか生み出せていないというのが現状である。民間の土地ではあるが、シェア駐車場のサービスが展開されているため、そのサービスの普及・活用が進むと、もう少し一般の方の駐車需要に対応できるようになるのではないかと考えている。

委員：えこたんバスのスクールバス利用について、令和4年度においても利用者数が回復していない要因は何なのか。

事務局：コロナ禍により、スクールバスの利用が控えられ、その後、家族の送り迎えが常態化したのではないかと推測される。

委員：11月には藤田医科大学病院付近に岡崎警察署が移転し、免許更新だけで150～300人/日訪れるため、藤田乗合直行タクシーが利用できる状況になるといい。免許返納の理由について、現状は家族が送り迎えしてくれるという理由だが、代替移動手段があるという理由の割合が増えるとよいと考えている。

事務局：藤田乗合直行タクシーの停留所として、岡崎警察署を追加することは難しいと思うが、藤田乗合直行タクシーの利用者に対して、情報提供を行うことはできると思う。

委員：ニーズ調査のチラシの公共交通の色合いやフォントが見づらいと感じる。デザイナーなどに改善をお願いしたい。

事務局：わかりやすいデザインになるように改善していく。

・第2号議案の承認

3 閉会

事務局：委員の皆様におかれましても、お忙しい中お集まりいただき、また慎重に議論していただきありがとうございました。今年度は議論いただきました地域公共交通計画策定に向けた事業を進めていくにあたり、本日を含め、年4回の会議を予定しておりますので、引き続き幸田町の公共交通につきましてご意見をいただければと思っております。次回の開催につきましては10月頃を予定しており、開催日が決まり次第、改めてご連絡させていただきますので、よろしくお願いいたします。

以上をもちまして、令和5年度第1回幸田町地域公共交通会議を閉じさせていただきます。皆様、本日は大変お忙しい中、ありがとうございました。

以上